

- 4) 基幹施設と都道府県内の参加施設との間で、プール血清や市販管理物質を独自に用意し、地域内での正確さの伝達と確認を行う。
また、施設間差の状況を、地域内の外部精度評価 (EQA) で把握する。その際、都道府県ごとに実施されている標準化の手順や従来の実績を踏まえ、都道府県でプール血清や管理血清を準備し調査する。それらの集計結果を電子メールにて全国集計する。
- 5) 都道府県内の参加施設は、日常検査の中で独自の管理物質を用いた内部精度管理を実施し、その成績を都道府県データ標準化委員会に提出する。
各都道府県内参加施設の内部精度管理の収集結果を電子メールにて全国集計する。
- 6) 日臨技検査値標準化ワーキンググループは、全国の臨床検査データ標準化の状況を解析しその結果を参加施設に報告する。

4. 日本臨床検査薬協会による製品キャリブレーションの正確さ公開協力

標準的な健診・保健指導プログラムにおいて、健診項目の測定値の標準化として、血液検査については標準物質を用い標準化ができるよう示しています。すなわち、標準物質は測定値の正確さの基準となるもので、基準となる測定法を用い、正確な値が表示されており、この標準物質から試薬キットのキャリブレーションを介して、日常検査測定値に正確さが伝達されます。

また、内部精度管理と外部精度管理を実施し、トレーサビリティも含めた十分な精度管理を定期的に行う必要があります。臨床検査室では、トレーサビリティを確保した測定値を提供するために、適切な測定法とキャリブレーションを用い、測定の不確かさを把握し検査を実施することになりますが、その際に試薬キットのトレーサビリティ体系の確認とキャリブレーションの不確かさ情報が必要となります。

日本臨床検査薬協会に製品キャリブレーションの不確かさ情報をインターネット (www.jacr.or.jp/osirase/uc/index.html) で公開し簡便に得られるよう依頼し、実現に向け迅速な対応を戴きました。臨床検査データ標準化事業に大きく寄与するものです。

5. 本事業の成果の一端とデータ取扱いの原則

平成 19 年度の本事業成果の一端を報告します。全国の基幹施設に 8 種類の標準物質を配布し 26 項目の測定を実施した成績です。標準物質を用い全国 147 基幹施設で正確さをチェックするという本邦では初めて実施されたこの調査は、ほとんどの項目において基幹施設の正確さと施設間差がともに満足な状態にあることが検証できた結果が得られ、今後進展する臨床検査データ標準化の実現の可能性が期待できる成績となりました。

また、本事業で取扱うデータ及び集計結果は、都道府県名や基幹施設名を含んだ状態で参加都道府県代表担当者と基幹施設に報告し、また解析結果を会報・学会・資料等への公表を含め本事業の目的のために使用致します。 この項次号へ続く

各種認定試験実施要項

| 第2回 「認定心電検査技師」 | 第3回 「認定一般検査技師」 | 第2回 「認定臨床染色体遺伝子検査師」 |
|---|---|---|
| ◇ 日時：平成 20 年 12 月 14 日(日) | ◇ 日時：平成 20 年 12 月 21 日(日) | ◇ 日時：平成 20 年 12 月 21 日(日) |
| ◇ 会場：日本教育会館 | ◇ 会場：日本臨床検査技師会館 | ◇ 会場：日本臨床検査技師会館 |
| ◇ 受験資格：以下の全てを満たす者 | ◇ 受験資格：以下の全てを満たす者 | ◇ 受験資格：以下の全てを満たす者 |
| 1) 日本臨床衛生検査技師会の会員で、“日臨技生涯教育研修制度”修了者(平成 7～19 年度に修了証書を受領した者)、又は、受験申請時に平成 20 年度で修了点数を取得している者 | 1) 日本臨床衛生検査技師会の会員で、“日臨技生涯教育研修制度”修了者(平成 7～19 年度に修了証書を受領した者)、又は、受験申請時に平成 20 年度で修了点数を取得している者 | 1) 日本臨床衛生検査技師会会員の会員で、“日臨技生涯教育研修制度”修了者(平成 7～19 年度に修了証書を受領した者)、又は、受験申請時に平成 20 年度で修了点数を取得している者 |
| 2) 日本心電学会会員であること。ただし、受験申請時に日本心電学会への入会も可とする。 | 2) 一般検査実務歴が通算 3 年以上の者 | 2) 染色体遺伝子検査実務歴が通算 3 年以上の者 |
| 申請締め切り・・・10 月 20 日 | 申請締め切り・・・11 月 10 日 | 申請締め切り・・・11 月 10 日 |

**詳細は、日臨技ホームページ日臨技認定センターの
各種認定技師「認定試験実施要項」をご覧ください**

<http://www.jamt.or.jp/>